

-----  
◆ 目次 ◆

- 1 伊澤修在モンリオール日本国総領事 離任のご挨拶
  - 2 2021 年 8 月・9 月の休館日
  - 3 寄稿（MONTAKI CANADA INC. アドバイザー 滝川道夫）
  - 4 領事便り
    - (1) 日本へ入国・帰国される方々へ
    - (2) 領事窓口の受付時間
    - (3) 2021 年度の領事出張サービスについて
    - (4) 在留届の内容は最新でしょうか？
    - (5) 海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業のご案内
  - 5 広報・文化便り
  - 6 政治
  - 7 経済
- \* \* \* \* \*

1 伊澤修在モンリオール日本国総領事 離任のご挨拶

モンリオールの夏も終わりつつありますが、皆様如何お過ごしでしょうか。

私ことながら、今般、帰国の発令を受け、9 月上旬に当地を離任することとなりました。2018 年 10 月に着任してから 3 年、長いようであつという間の時間でした。この 3 年間、自分なりに日本とケベックの関係の強化に尽力してきたつもりですが、実現できたこと、できなかったこと、思いはつのります。

最初の年はモンリオールと成田の直行便が就航し、その年の日ケベック間の往来は観光客を中心に 2 倍近くになりました。直行便により利便性が向上した結果、以前よりも容易に訪日できるようになり、ケベック市民による日本の「発見」が始まりました。しかし、2 年目の途中からコロナ禍が始まり状況は一変、総領事館の活動の中心がコロナ情勢のフォローと邦人支援になりました。本年前半になって長期の活動制限とワクチン接種の拡大により、状況は落ち着き、総領事館も本来の活動に戻りつつあります。任期の半分をコロナ禍により活動を制約せざるを得なかったことは残念ですが、邦人の皆様の間で深刻な被害がでなかったことは本当に良かったと思います。

3 年間の勤務で印象に残ったことは多くありますが、3 つ述べたいと思います。

先ず、コロナ対策の効率性です。ケベックの医療制度は日本と大きく異なるために、最初はケベックの病院の「冷たい？」対応に驚きました。総領事館としては、関係の強化のために、ビジネスであれ、学問であれ、多くの日本人にケベックに来て頂きたいと考えていますが、こうした「冷たい」医療制度は足かせになるのではと懸念しました。ところが、コロナ対策においてケベックの医療制度は大きな成果を上げました。今日の日本のワクチン接種の状況を見ると、1日10万人以上がワクチン接種を効率的に受けられたケベックの医療制度はすごいと思います。人口800万人のケベックが毎日10万人以上のワクチン接種を実施できた「からくり」は、将来日本が医療制度を改革することになるのであれば、大いに参考になると思います。

次に、ケベック市民の穏やかで暖かい人柄です。カナダの他の地域を知らないのでカナダ人全般がそうなのかもしれませんが、ケベック市民の人柄の良さ、温厚さは素晴らしいと思います。小官の個人的思いとしては、こうした国民レベルでの人柄の良さは日本人に通じるところがあると思います。そして多様性の尊重です。特に、ここモントリオールでは、人口300万の大都市であるにもかかわらず英仏二か国語制度が定着しています。外交官としてこれまで世界中様々な都市を訪問しましたが、これ程の大都市で、ここまでバイリンガルが現実化している場所はありません。ジュネーブもブリュッセルも比では無いと思います。その意味で、世界が多様性を志向していくのであれば（自分はそうあって欲しいと思うのですが）、モントリオールは一つのモデルとなることでしょう。

そして何といても、ケベック市民の対日関心の高さ、そして親日度です。以前は大半のケベック市民にとって日本は未知の場所でした。日本の伝統文化やポップカルチャーは人気がありますが、実際に日本を訪問して、日本を体験した人はそれほど多くはありませんでした。それが人々の往来の拡大に伴い状況が大きく変わり、日本は具体的なイメージをもって多くのケベック市民に愛されるようになりました。和食が広まっているのもその証左だと思います。小官自身も任期中どなたにお会いしても日本の代表としていつも暖かく迎えられました。総領事冥利に尽きると思います。政策面でも、少子高齢化、移民対策、伝統文化・アイデンティティーの維持 etc、ケベックと日本は同様な問題に直面しています。その意味でも日本とケベックの対話は今後ますます重要になるし、同時にむしろそのような対話を積極的に強化していかなければならないと考えています。

この3年間、多くの皆様にご支援頂き無事に任期を終えることができました。これまでのご支援、ご厚情に深く感謝申し上げます。そして、小官の後任にも同様なご支援をよろしくお願い申し上げます。

皆様、お元気でご活躍ください。

## 2 2021 年 8 月・9 月の休館日

- 9 月 6 日（月）Labour Day（当地の祝日）
- 9 月 20 日（月）敬老の日（日本の祝日）
- 土・日曜日

## 3 寄稿 ～ MONTAKI CANADA INC. アドバイザー 滝川道夫より ～

私は、戦時中の昭和 19 年 1 月 24 日（1944 年）に東京で 7 人兄弟の 4 番目として生まれました。子供の頃は、近所の子供のガキ大将としてチャンバラごっこや、ベーゴマ遊び、メンコ遊び等で毎日過ごしていました。又、母が洋画が好きで、私も母と一緒に子供の頃からよく洋画を観ていました。その影響なのか、中学生の頃から海外に行くことを夢に見ました。

小学校の高学年頃に、当時の東映フライヤーズ（現日本ハムファイターズ）が私の家の近所にある駒沢球場に本拠地を構えることになり、フライヤーズの 2 軍選手達にキャッチボール等をして遊んでもらっていました。元々野球が好きで、高校時代から本格的に野球を始め甲子園を目指し日々奮闘をしていましたが、高 3 の東京大会で一回戦敗退してしまい甲子園に行くという夢は残念ながら叶いませんでした。しかし、ブラジルの日系進出企業が野球選手を募集していることを知り、千載一遇のチャンスだと思い応募しました。日本全国から約 400 人くらいの応募者が東京の神宮球場に集まり選考テストが行われました。合格者はたった 10 人で、幸運にも私はその中の 1 人として選考され、5 年契約で 1964 年の春にブラジルに渡りました。ブラジルで 5 年間私が所属したチームは、同国の選手権大会で 4 回優勝し、私個人もオールブラジル選手に毎年選ばれていました。この 5 年間に、ベネズエラやコロンビアの中南米チームと対戦したり、1968 年には日本の社会人野球で優勝した電々近畿を中心とする日本の選抜チームと対戦をしたりと毎日野球に明け暮れる日々を過ごしていました。

ブラジルでの 5 年間の野球契約を終えた後、数か月間の中南米諸国貧乏旅行を経て、1969 年末にモントリオールにやって来ました。当初は、私の夢であった世界一周の資金作りの為にカナダには数カ月の滞在予定でしたが、それがいつの間にか 50 年も経ってしまいました。カナダ入国時に何かの間違いか、観光ビザでなくワークビザが発給されたという幸運に恵まれたお陰で仕事もすぐに見つかりました。数か月間は、当地の航空機やディーゼル機関車等の部品メーカーで働き、1970 年には日本の某大手商社のカナダ法人のモントリオール本社に現地社員として入社しました。それ以来、貿易一筋の仕事をしてきました。

1970 年のケベック州は、FLQ (Front de Liberation du Quebec) の活動が活発になり、10 月にはケベック州政府の閣僚の誘拐・殺害及び英国の外交官の誘拐事件等が発生し、モントリオールに戒厳令が発動され大変な年でした。1970 年代から 1985 年の第 1 回目の Referendum から 1995 年の第 2 回目の Referendum までの間のケベック州は、政情不安定で、大手の銀行や生命保険会社の本社のトロント及びその他の都市への移動などがあり、モントリオールの経済的沈滞ムードが続いた時代でした。しかし、私の記憶では、その間に日本から総合商社及び専門商社が合わせ 11 社、金融関係が 2 社、家電、建設機械、タイヤ等の製造業が 9 社、船会社と運輸会社が 8 社等、計 30 社が日本から進出しており、駐在員の数もご家族を含めると 150 名近くいたのではないのでしょうか。

1970 年から 1995 年迄の 25 年間の商社では様々な仕事に従事し、最初の 5 年間は貿易の基本業務である輸出関連の事務の仕事をみっちり仕込まれました。その後、営業に配属され、営業区域であったオンタリオ州、ケベック州、ニューブランズウィック州、ノーバスコシア州、ニューファンドランド州のニッケルやウラニウム鉱山、鉄鉱山、アスベスト鉱山など、東カナダにある主な鉱山会社向けに 100-150 トンのダンプトラック用の直径約 3 メートルの超大型タイヤを販売していました。その他にも、カナダの大手タイヤメーカーにスチールタイヤコード、モントリオール市の下水道工事用の土木機械、高圧バルブ用鍛造部品、ディーゼル機関車の駆動輪モーター、鉱山用排水ポンプ、フォークリフト等も販売していました。

入社当時のモントリオール本社には 2 名の東大法学部出身者を始め、東京、大阪地域の国立大学や有名私立大学出身のエリート社員が 10 名程駐在していました。それに刺激され、モントリオールの英語系大学の夜間部に入学し、卒業迄 10 年間、仕事、学業そして家庭と 3 つの事を同時に行っていました。今考えると、どうやって 10 年間をやり通したのかと疑問に思うほど自分ながら感心しています。卒業証書を貰った時は、大学で何を学んだかというより 10 年間掛けて何かをやり遂げたという事で感無量でした。

商社入社当時の日本円は US\$1.00 に対し 360 円でしたが、1971 年に 308 円となり、1973 年の変動相場制に移行後は徐々に円高となり 1980 年代の始めには 200 円台から 1990 年代には 100 円台となり、それに連れ日本製品の価格競争力も低下し、繊維や雑貨等の低付加価値商品の輸入が徐々に減少していききました。私の仕事も、円高/ドル安を契機に、カナダ製品の輸出に力を入れるようになりました。日本向けには、フランスやカナダの原子力発電所、米国海軍の原子力潜水艦、原子力空母に採用されているカナダ製ステンレススチール高圧バルブをプラントエンジニアリング会社や造船メーカー向けに輸出したり、Bombardier 社（現在は BRP 社）製の水上スクーター Sea-Doo

の日本の販売権を取得して国内の販売網を通じて一般向けに販売したり、大手建設機械メーカーに家庭用除雪機の OEM 販売や、生物分解性プラスチックの原料をプラスチック製品メーカー等に納入したりと様々な製品の輸出に関わってきました。

日本以外では、当時のユーゴスラビアや南米のベネズエラにタイヤコードやアスベストを輸出をしたり、アフリカのガボンには牛乳を輸出したこともありました。その他には、石油輸送パイプラインの錆防止用塗料をサウジアラビア、イラク、インド、シンガポール向けに売り込みをしたり、難民用に、16 戸入り 3 階建てのアパートが 1 日で建つモジュラー式建造物を紹介するためイスラエル侵攻 6 か月後のベイルートや、イラン・イラク戦争中のバグダッドへ出張したりと大変貴重な経験もしました。入社 8 年後頃に、本社採用の誘いがあり更に 10 年後位にカナダ会社の副社長昇進の話がありましたが、将来独立し貿易会社を始めようと考えていたためいずれも断り、1990 年頃から 5 年後の独立を目指し準備を開始しました。

5 年間の準備期間後、1995 年の年末に 25 年間勤務した商社を退社し MONTAKI CANADA INC. という貿易会社を設立しました。社員は私 1 人という小さな会社で、時差の関係で朝の 7 時半頃から昼頃迄はヨーロッパの仕入れ先との FAX 交信をし、昼過ぎからは、日本及び東南アジアの取引先との交信等で夜 12 時過ぎから就眠するまで休み無しの日でしたが、仕事も面白く、また張り合いもあり楽しかったです。営業開始当初は、日本向けにケベック産有機大豆、アルバータ産の家畜用牧草、カナダ、フィンランド、ドイツの花栽培や野菜栽培に使用される培土に混ぜるピートモスを輸出し、数年後からは、北海道や四国の畜産農家等で活躍している間口が最大 50 メーター奥行きが最大 200 メーターのドーム型構造物、CD/DVD 用塗料、日本の TV 局のバラエティー番組で数回紹介された特殊林業機械を日本とインドネシア向けに輸出を開始しました。

2007 年頃からは、日本、韓国、中国から消防服や高温作業服に使用される耐熱繊維及び、ヨットの帆や耐切創手袋、防弾チョッキ等に使用するスーパー繊維と呼ばれる産業用特殊繊維をカナダ、USA 及びヨーロッパ向けに輸入を開始しました。2008 年のリーマンショックでは、私の会社も影響を受け、創業以来初めての赤字を計上しマイナス決算となる結果となりましたが、翌年には前年度の赤字も一掃できました。2007 年に長男が入社、更に 2016 年に次男が入社し、2018 年末に 2 人の息子が事業を引き継ぎ、現在はアドバイザーとして側面から応援しています。

中学生の頃の世界 1 周の夢は叶いませんでしたが、1970 年から現在に至る迄の約 50 年間の貿易の仕事の関係で、北中南米諸国、旧ソ連と北欧を含むヨーロッパ、中近東、インド、アジア等 60 カ国以上の国を訪問することが出来ました。これからも機会があれば未知の国々を訪問したいと考えております。

MONTAKI CANADA INC.

## ADVISOR

滝川道夫（たきかわみちお）

### 4 領事便り

#### （1）日本へ入国・帰国される方々へ

新型コロナウイルス感染症の水際対策により、日本への入国・帰国前から事前の準備が必要です。詳しくは当館 HP をご覧ください。

#### 【当館 HP】

[https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/coronavirus\\_jp.html](https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/coronavirus_jp.html)

#### （2）領事窓口の受付時間

当地における新型コロナウイルス感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニーズに適切にお応えしていくため、昨年 4 月 1 日より、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

#### ●領事窓口の受付時間

10:00～12:30、13:30～15:00

※9:00～10:00 及び 15:00～17:00 につきましても、電話による照会（緊急の場合）、メールによる照会に対応しております。

エレベーターで 33 階のボタンを押すと、総領事館のあるフロアへお越しになれます。

#### （3）2021 年度の領事出張サービスについて

現在、以下の都市における領事出張サービスを予定しています。

なお今後、新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、各種規制が強化される等の事態になった場合は、領事出張サービスの実施日を変更したり、開催自体を中止したりする可能性があります。あらかじめご了承ください。

#### ●2021 年 9 月 11 日（土）

ニューファンドランドラブラドル州 セントジョンズ

#### ●2021 年 10 月 2 日（土）

ノバスコシア州 ハリファックス

なお、領事出張サービスは完全予約制としています。ご利用を考えている在留邦人の皆様におかれては、まずは当館にご連絡をお願いします。

【当館 HP】

<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday.html>

(4) 在留届の内容は最新でしょうか？

海外において災害等の緊急事態が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や必要な情報を提供する等のための連絡が迅速に行えるよう、在留届の記載内容を確認しております。

外国に3か月以上滞在する日本人は、お住まいの地域を管轄する在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在外公館は、在留届をもとに、日本人の皆様が不慮の事故や事件、災害に遭遇した際の安否確認、日本国内連絡先への緊急連絡等を行っています。そのためには、在留届の記載内容が常に最新の状態であることが重要です。

在留届を提出されている在留邦人の皆様のうち、在留届を書面で当館に提出された方におかれては、届出内容に変更が生じた場合は、速やかに当館にご連絡くださるようお願いいたします。

なお、インターネット上で提出された方におかれては、ご自身でインターネットにて手続きをお願いいたします。

(5) 海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業のご案内

日本国外務省は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により生活に支障が出ている海外の在留邦人・日系人を支援するため、在外諸団体（日本人会、日本商工会議所、日系人団体等）を通じた「海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業」を実施することとなりました。

同事業は、日本人会、日本商工会議所、日系人団体等が実施する、新型コロナウイルスの感染拡大防止策やビジネス環境作りの支援を目的とする内容となっています。

この支援事業の申請期間締め切りが、7月30日（金）から9月30日（木）まで延長されました。申請要領などもアップデートされています。

申請には条件がありますので、詳しくは外務省ホームページをご確認ください（個人や企業による申請は認められていません）。

【外務省 HP】

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/cp/page22\\_003572.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/cp/page22_003572.html)

## 5 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（[culture@mt.mofa.go.jp](mailto:culture@mt.mofa.go.jp)）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

### （1）当館ツイッターアカウント

当館ツイッターアカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

<https://twitter.com/JaponMontreal>

### （2）オタクソン 2021（オンライン）

日本のアニメ、マンガ、ビデオゲーム、ポップカルチャー等に関するイベントです。期間中、当館協力事業として、生け花、日本の伝統音楽、和食に関する動画配信を行う予定です。

期間：8月20日（金）～22日（日）

<https://www.otakuthon.com/2021/en/>

### （3）日本関連行事等のお知らせ

\*以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問合わせください。

\*外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様へのご参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんのでご了承ください。

### ●ラヴァル大学図書館エスパス・ジャポン：オンライン—日仏語ランゲージエクステンジ

ケベックと日本をインターネットソフトウェア Discord を使って繋ぎ、日本語・仏語それぞれの言語の学習を楽しみながら深めます。中級から上級レベルの方が対象です。

1月18日より隔週月曜 19時～21時

参加費：無料

問合わせ・申込先：佐藤祥子氏 [sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca](mailto:sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca)

### ●1001 Pots

今年で32回目を迎える「1001 Pots」で、当地在住陶芸家の間由加里氏、マキコ・イシェール・ナカムラ氏、石川金矢氏の作品展示が行われます。

期間：7月9日（金）～8月22日（日）

場所：2435 Rue de l' Eglise, Val-David

<https://1001pots.com/>

●ファンタジア国際映画祭

日本映画も多数上映されます。

期間：8月5日（木）～25日（水）

<https://fantasiafestival.com/en/>

●第8回 Mondo Karnaval（ケベック市）

世界45カ国参加の文化関連行事（ダンス、音楽、伝統文化紹介）がケベック市で行われます。ケベックー日本友好協会が茶道（茶道裏千家ケベック協会）、書道（松山優美氏）、折り紙（同協会）等のキオスクを出展します。

日時：9月4日（土）、5日（日）、6日（月・祝日）

場所：Place Fleur de Lys de Quebec

入場無料

<https://www.mondokarnaval.com>

\*3日間の中で2時間以上ボランティアができる方を募集しています。

ボランティア希望者連絡先：ゴーバン雅美氏 [quebecjapon2018@gmail.com](mailto:quebecjapon2018@gmail.com)

●第3回日本ーケベック友好展（ケベック市）

日欧宮殿芸術協会主催の第3回日本ーケベック友好展が行われます。日本の伝統芸術である書道、水墨画、日本画や文学作品（俳句、短歌、散文など）、コンテンポラリーアート、油彩、水彩のほか、ケベックのアーティスト参加作品も合わせて総数190点ほど展示されます。

日時：9月23日（木）、24日（金）10時～20時

9月25日（土）10時～17時 及び 9月26日（日）10時～15時

場所：Domaine Cataract

2141, chemin Saint-Louis, Quebec

会場電話：418-528-7433

以下の時間帯でデモンストレーションも行われます。

9月25日（土）14時：コンテンポラリーアート；Jean-Yves Chretien氏

9月26日（日）14時：水墨画、書道；今井則子氏

問い合わせ：今井則子氏（共同企画責任者）：[norikopuffin@hotmail.com](mailto:norikopuffin@hotmail.com)

電話：(418)-652-7683

●国際交流基金トロント日本文化センター主催（オンライン）イベント  
夏の間、日本語教師向けにワークショップや情報交換会が開催されています。

<https://jftor.org/language/teachers/>

その他、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://jftor.org/>

## 6 政治

### (1) ケベック(QC)州

・7月6日、モントリオール市は、ケベック州政府の支援が得られなくなったことを理由に、2026年FIFAワールドカップ招致活動撤退を発表。

(新型コロナウイルス関連)

・7月6日、2回のワクチン接種間隔が8週間から4週間に短縮される(12~17歳は15日より)。

・7月12日、世帯の異なる人同士の対人距離が屋内でも2メートルから1メートルに。ただし運動や歌唱活動には適用されない。小売店における人数制限も解除される。

・7月16日、州政府は、ワクチンくじ実施を発表。8月には毎週、少なくとも1回接種を受けた人を対象に賞金15万加ドル(成人)または奨学金1万加ドル(未成年)、9月には完全接種を受けた人を対象に賞金100万加ドルまたは奨学金2万加ドル(未成年)等が当たるチャンス。

・7月29日、ワクチン接種率が集団免疫形成にはほど遠い中、デルタ株による感染者増加は避けられないと複数の専門家が発言。

### (2) ニューファンドランド・ラブラドール(NL)州

・7月28日、トルドー連邦首相は、連邦・州政府は、2023年末までに1日10加ドルの保育料金を実現するためのプログラムに合意したと発表。NL州には合意の一環として2021年から2025年の間に3.47億加ドルが交付される。

(新型コロナウイルス関連)

・7月15日、2回のワクチン接種間隔が8週間から4週間に短縮される。

・7月30日、州政府は、8月1日より再開計画のステップ2に移行すると発表。大西洋州外からの入州時事前申請に関する決まり等が緩和される。

### (3) プリンスエドワードアイランド(PEI)州

・7月27日、トルドー連邦首相は、連邦・州政府は、2024年末までに1日10加ドルの保育料金を実現するためのプログラムに合意したと発表。PEI州には合意の一環として1.2億加ドルが交付される。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 7 月 9 日、屋内でのマスク着用義務付けが解除される。

#### (4) ノバスコシア (NS) 州

- ・ 7 月 13 日、トルドー連邦首相は、連邦・州政府は、今後 5 年間かけて 1 日 10 ドルの保育料金を実現するためのプログラムに合意したと発表。NS 州には合意の一環として 6.05 億加ドルが交付される。

- ・ 7 月 17 日、ランキン州首相は、州議会総選挙実施を発表。投票日は 8 月 17 日。

#### (新型コロナウイルス関連)

- ・ 7 月 14 日、フェーズ 4 開始。レストランや小売店は通常営業となり、マスク着用ルール等が緩和される。

#### (5) ニューブランズウィック (NB) 州

#### (新型コロナウイルス関連)

- ・ 7 月 30 日、非常事態宣言終了とともにグリーンフェーズに移行。マスク着用義務、入州制限をはじめとする全てのコロナ規制が解除される。当初グリーンフェーズ移行の条件としていた 12 歳以上人口の完全接種率 75%の目標は未達成 (29 日時点で 66%)。

### 【各州世論調査結果（未確定分は除く）】

#### ●連邦政党支持率

- ・ QC 州（レジェ (Leger Marketing) 調べ（以下同じ）、7 月 2～4 日）：自由党 31%、ブロック・ケベコワ (BQ) 32%、保守党 17%、新民主党 (NDP) 13%、緑の党 3%、その他 4%

- ・ QC 州（7 月 16～18 日）自由党 34%、BQ 30%、保守党 14%、NDP 13%、緑の党 4%、その他 5%

## 7 経済

### (1) QC 州

- ・ 7 月 1 日、ボンバルディアは、ビジネスジェット 10 機を受注。契約額は今年最高の 5.55 億加ドル。

- ・ 7 月 6 日、連邦政府は、ケベックシティ・トロント間の高頻度列車 (HFT/TGF) プロジェクト実現に向けた準備を進める意向を表明。新鉄道は時速 200km でケベックシティ・モントリオール間の移動を今より 30 分短縮し、90%が電気式、ジャン・ルサージュ空港に通じる駅建設の可能性もある。

- ・ 7 月 9 日、トロワ・リヴィエール企業 Proaxion は、東京オリンピック期間中、カナダ・オリンピック・パラリンピック委員会施設に安全な環境を確保するための衛生サービスを提供。

- ・ 7 月 9 日、コロナ禍で停滞している観光業活性化のため、モントリオール観光局と州政府は、地域の主要文化団体やイベントに 1300 万加ドルを支出。

- ・ 7 月 9 日、モントリオール港湾局 (APM) は、モントリオール近郊の Contrecoeur に建設を予定している新コンテナターミナルについて、設計・建設・資金調達・運用・保守に関する国際入札を準備中。

- ・7月12日、州政府は、Eeyou Istchee James Bay 南部（Nord-du-Quebec 地域）に生育するマツタケ研究のため FaunENord 社に 4.3 万加ドルを支出。
- ・7月12日、州・連邦政府は、電動のスノーモービル、水上バイク、パワートレイン、バッテリーパックの組立工場をシャウィニガンに建設するため、電動レクリエーションビークルメーカーの Taiga Motors に 4000 万加ドルを支出。
- ・7月13日、モンリオールの Seneca 社は、リチウムイオン電池の 95%をリサイクル可能な特許取得済みプロセスの 2023 年商業化を目指している。
- ・7月14日、複数の企業団体は、連邦政府に対して国際線と外国人観光客受け入れ再開を求めてモンリオール空港に集結。
- ・7月14日、モンリオール市の投資促進機関モンリオール・インターナショナルによると、国内外の企業がモンリオール圏に記録的な投資を行っている。海外からの投資は今年最初の 6 ヶ月間で 18.6 億加ドルの新記録を達成、40 の新規プロジェクト、6300 人の雇用創出を記録した。
- ・7月14日、州政府は、レヴィに計画されているデータ処理工場建設プロジェクトのため、QScale 社に 9000 万加ドルを支出。同プロジェクトの特徴は、コンピュータから出た熱が隣接地に設置予定の温室に回収され、年間で 2800 トンのベリー類、8 万トンのトマトが生産できるようになるというもの。
- ・7月15日、州政府は、2026 年までの稼働を目指しハイドロケベックによる 780 メガワット相当の再生可能エネルギーの入札募集を年内に行う予定。州政府は、再生可能エネルギーの需要を見込み、さらなる入札実施を見込んでいる。
- ・7月15日、ガスペの風力タービンブレード製造の LM Wind Power 社は、同市史上最大の投資額となる 1.6 億加ドル（うち 5400 万加ドルは州・連邦政府からの支援）を支出して製造工場拡張を行う。
- ・7月15日、州・連邦政府は、航空宇宙産業支援のため最大で 6.93 億加ドルを支出すると発表。この一環で航空機エンジン製造の Pratt & Whitney は、ハイブリッドエンジンを開発する 1.63 億加ドルのプロジェクトについて、連邦政府から 4900 万加ドル、ケベック州政府から 2050 万加ドルの融資を受ける。
- ・7月16日、州内の企業コンソーシアム SAF+は、今月中に持続可能な航空燃料の生産を開始する。Power-to-Liquid synthetic e-oil (PtL) と呼ばれるこの燃料は、大規模排出者から回収した CO2 と水素を合成して製造される。
- ・7月16日、映画制作の MELS Studios は、ハリウッドの需要に応えるためモンリオールに新たなスタジオ MELS 4 を建設する。建設費用 7600 万加ドルで州政府は 2500 万加ドルを融資する。早ければ 2023 年春には完成予定。
- ・7月20日、州統計局 (ISQ) によると、州経済は 3 月に 1.6%成長した後コロナ第 3 波を受け 4 月には 0.2%マイナスとなるも、2021 年 1~4 月の実質 GDP は前年同期比で 8.2%増加した。
- ・7月21日、州政府は、サグネの 140 億加ドルの液化天然ガス (LNG) プロジェクト GNL Quebec を承認せず。環境に関する公聴会事務局 (BAPE) は、同プロジェクトが温室効果ガス排出量増加を引き起こすであろうと報告していた。
- ・7月21日、中国の IT 大手テンセントの子会社でビデオゲーム開発の TiMi は、カナダで最初の拠点としてモンリオールにスタジオ開設。

## (2) NL 州

・7月28日、トルドー連邦首相は、予算超過・工期遅延が続くマスカットフォールズ水力発電プロジェクトに対して52億加ドルの財政支援を発表。連邦政府のハイバーニア・オフショア油田の権益から32億加ドル、融資保証10億ドル、ラブラドルとニューファンドランド島をつなぐ送電線の同州保有分に10億ドルの投資を行うというもの。これにより長年同州で懸念事項となってきた、同発電所本格稼働時の電気料金高騰が回避できることになった（1キロワット時あたり現在の12.5セントから14.7セントに上昇するが、予測されていた23セントを大幅に下回る見込み）。

### (3) NS 州

・7月2日、ピアリダイ・エナジー(Pieridae Energy、本社カルガリー)は、ゴールドボロ(Goldboro、州東海岸)に建設予定の液化天然ガス(LNG)工場建設プロジェクトに必要な主要条件を満たすことができなかったとし、最終投資決定(FID)を延期。  
・7月7日、州政府は、コロナ後の経済再生とスタートアップ支援のため、新規事業立ち上げから2年間の手数料撤廃を発表。

-----  
[在モンリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン読者登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

[emagazine@mt.mofa.go.jp](mailto:emagazine@mt.mofa.go.jp)

○メールマガジン読者登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、[emagazine@mt.mofa.go.jp](mailto:emagazine@mt.mofa.go.jp) までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モンリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下のURLをクリックすると閲覧いただけます。

[https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/mailmag.html](https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html)

### ○参考ホームページ

首相官邸ホームページ ( [www.kantei.go.jp](http://www.kantei.go.jp) )

外務省ホームページ ( [www.mofa.go.jp/mofaj/](http://www.mofa.go.jp/mofaj/) )

在カナダ日本国大使館ホームページ ( [www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop\\_ja/index.html](http://www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html) )

当館ホームページ ( [https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop\\_ja/index.html](https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html) )

当館 Facebook ( [www.facebook.com/JapanConsMontreal](https://www.facebook.com/JapanConsMontreal) )

当館 Twitter : @JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当  
( [emagazine@mt.mofa.go.jp](mailto:emagazine@mt.mofa.go.jp) ) までご相談ください。

■-----■